

市制施行50周年記念 『親子ダム施設等見学会』を実施しました

上下水道部では市制施行50周年記念事業の一環として、平成28年7月23日(土)、市内の小学4年生とその保護者を対象とした親子ダム施設等見学会を実施しました。当日は20組(40名)の方々にご参加いただき、浦山ダム(秩父市)と川の博物館(寄居町)を見学しました。参加者の方からは「水の大切さを痛感した」、「夏休みの宿題に役立てることができた」等様々なご感想をいただくことが出来ました。



浦山ダム(秩父市)



浦山ダム防災資料館「うららびあ」

防災訓練を実施しました

平成28年8月21日(日)、各地区の自主防災会や関係機関と協力しながら、今年も入間市防災訓練が実施されました。上下水道部は入間市管工事協同組合、入間市水道協会をはじめとする関係団体とともに、災害により破損した水道管の復旧、給水車で飲料水配布、仮設トイレの設置等、災害発生時に備えた訓練を行いました。



給水車給水訓練(二本木公民館)



水道施設復旧訓練(中神多目的広場)

寺竹配水場を建設しています



金子地区の配水を担っている南峯配水池と寺竹加圧場の老朽化に伴い、平成27年度から平成29年度にかけて、2つの水道施設を統合した配水機能を持つ寺竹配水場の新設工事を、寺竹加圧場の東側で実施しています。おかげさまで工事は順調に進んでおり、現在は配水池の躯体工事を行っています。平成28年10月末現在の進捗率は約34%です。

平成30年度からの運用を目指し工事を進めていますので、安定給水維持のため皆様のご理解とご協力をお願いします。

平成27年度 水道事業会計の決算報告



平成27年度は比較的降雨に恵まれたため、年間を通して安定した給水を図ることができました。

【業務概況】

給水状況については、年度末の給水戸数は65,798戸、給水人口は149,232人となり、前年度に比べ給水戸数で464戸増加しましたが、給水人口は299人減少しました。

年間配水量は約16,592千 m^3 、前年度に比べ約220千 m^3 増加し、このうち水道料金収入の対象となった有収水量は約15,732千 m^3 、有収率は94.82%となりました。

【水道事業収益】 29億 2千 800万円

水道事業の主財源である水道料金は、約24億2千万円で前年度に比べ、使用水量の増加に伴い約800万円の増収となりました。



【水道事業費用】 24億 6千 700万円

事業費は全体で24億6千700万円、前年度に比べ約8千200万円の減少となりました。主な要因は県から買う水の代金(受水費)や動力費、資産減耗費の減少などによるものです。



【純利益】

事業収益から事業費を差し引いた税引き後の純利益は、約4億6千200万円(※)となり、前年度に比べ約7千500万円の増加となりました。主な要因は収益的収入では水道料金収入が前年より僅かながら増加したことや、収益的支出では受水費や動力費、資産減耗費が減少したことによるものです。これらの利益は、今後の企業債の返還に充てる減債積立金及び建設改良費の事業費に充当する建設改良積立金として積み立てる予定です。今後も効率的で安定した事業経営に努めます。

※グラフは見やすいように100万円単位以下を調整して表示しています。

※四捨五入の調整により表記上、収益と費用の差額は純利益と一致しません。

平成27年度 下水道事業会計の決算報告

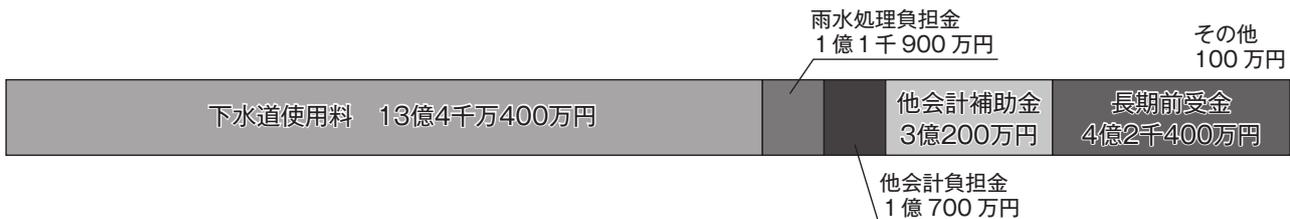
【業務概況】

年度末における普及状況については、行政区域内人口149,292人に対し、処理区域内人口は131,705人で普及率は88.22%となり、前年度に比べ行政区域内人口で299人、処理区域内人口で297人、普及率が0.02ポイント減少しました。また、水洗化人口は127,409人で水洗化率は96.74%となり、前年度に比べ水洗化人口で35人減少し、水洗化率は0.19ポイント増加しました。

年間汚水処理水量は約14,952千 m^3 、前年度に比べ約120千 m^3 増加し、このうち下水道使用料収入の対象となった有収水量は約13,232千 m^3 、有収率は88.50%となりました。

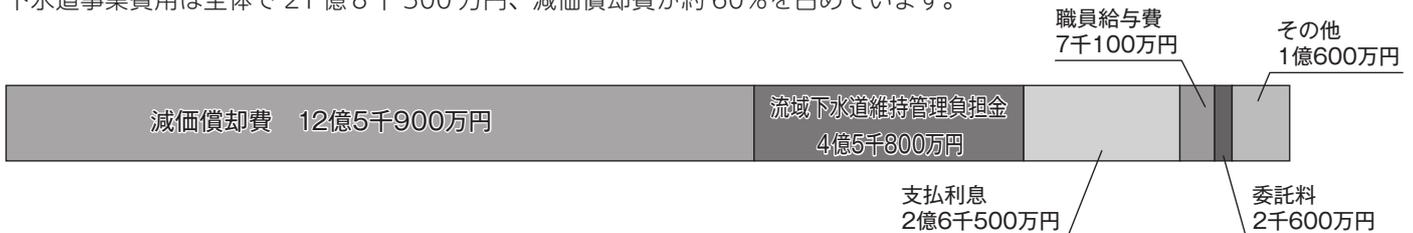
【下水道事業収益】 22億9千700万円

下水道事業の主財源である下水道使用料は、約13億4千万円であり、一般会計からの繰り入れである雨水処理負担金及び他会計負担金は約2億2千万円、他会計補助金は約3億円となりました。



【下水道事業費用】 21億8千500万円

下水道事業費用は全体で21億8千500万円、減価償却費が約60%を占めています。



【純利益】

上記の下水道事業収益から下水道事業費用を差し引いた純利益は、約1億1千200万円となりました。この利益は、今後の企業債の返還に充てるため減債積立金として積み立てる予定です。今後も効率的で安定した事業経営に努めます。

※下水道事業は、平成27年度に地方公営企業法適用に移行したため、収支の前年度比較はありません。

～ご存知ですか「入間市水道お客様センター」～

上下水道部では、平成24年4月から「水道お客様センター」を開設しています。市役所開庁時間外も下記のとおり営業していますので、水道使用に関するお申し込みやお問い合わせ、お支払いの際は、水道お客様センターへお願いします。

○基本情報○

住所：豊岡 1-12-24 エクレール1階

電話：04-2960-1301

営業時間

平日：午前8時～午後6時

土日：午前8時～正午

※祝日・年末年始(12/29～1/3)は休業

委託先：フジ地中情報(株)

○主な取扱い業務○

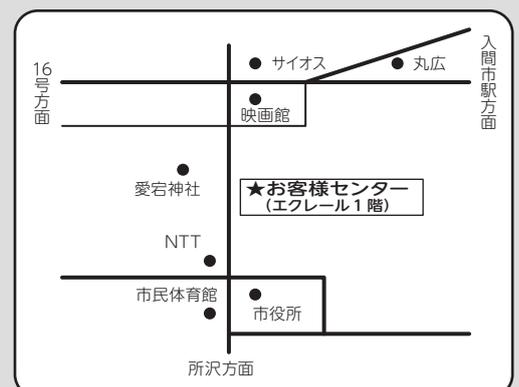
・使用開始、休止の受付

・水道メーター検針、交換

・水道料金、下水道使用料の収納

・使用者や支払い方法の変更

・その他、水道料金に関すること

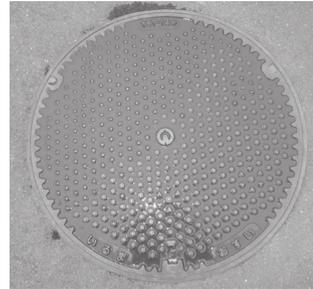


入間市の下水道について学習！

～マンホールの蓋について～

入間市の下水道は、昭和46年度に豊岡地区で単独公共下水道としてスタートしました。その後、荒川右岸流域下水道になった現在にいたるまでの約45年間、様々な種類のマンホールの蓋が存在しています。

マンホールの蓋の移り変わり

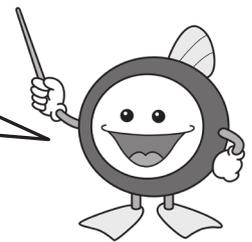
昭和 46 年度～	昭和 55 年度～	平成 5 年度～	平成 22 年度～現在
JIS 模様蓋	亀甲模様蓋	デザイン蓋	高品位型耐スリップ蓋
			

現在入間市では、高品位型耐スリップ蓋を標準型として採用しています。従来のデザイン蓋と比較すると寿命がおよそ2倍になり、磨耗してもすべりにくくなっています。そのため入間市では、順次古い蓋から交換を行っています。

ここで豆知識！～マンホールはなぜ丸いのか？～

諸説ありますが、蓋がマンホール内に落下することを防ぐため、どの角度からでも長さ（直径）が同じ円形の蓋を使用しています。

その他、円形には、地形の圧力に対して最も効率的な形状であること、移動する際に転がして運搬できること、製造がしやすいこと、マンホールの中に入って作業がしやすいことなどのメリットがあります。



下水道マスコットキャラクター「スイスイ」

入間市新水道ビジョン・入間市下水道事業中長期経営計画の策定について

現在、上下水道部では上下水道事業の10年間の計画である「入間市新水道ビジョン」、「入間市下水道事業中長期経営計画」を策定しています。平成29年1月中旬から2月中旬まで市公式ホームページ等で原案を公表し、市民の皆様からご意見を募集するためパブリックコメントを実施いたします。今後の10年間の大切な計画となります。皆様のご意見をお寄せください。



上下水道に関する情報は市公式ホームページ内入間市の上下水道からご覧ください。
お問い合わせは、入間市上下水道部（☎2964-1111）